

SPACE-N 3 ステップラダー

The Three-Step Clinical Ladder of
Specialized Palliative Care Education Program for Nurses

使用説明書

CONTENTS

1. 概要
2. 『SPACE-N 3 ステップラダー 回答用紙』の使用方法
3. 『SPACE-N 3 ステップラダー 結果入力シート』の使用方法
4. 3 ステップラダーによる自己評価の解釈と活用例
5. 留意事項

1. 概要

SPACE-N 3 ステップラダー（以下、3 ステップラダー）は、専門的緩和ケアに従事する看護師の能力の指標として開発され¹⁾、自己評価による看護師自身の能力の現状認識や教育プログラムへの活用等を想定しています。

使用許諾は必要ありませんが、以下の概要を踏まえてご利用ください。

1) 対象

専門的緩和ケアに従事する看護師^{*}であり、ELNEC-J（End of Life Nursing Education Consortium-Japan）コアカリキュラム看護師教育プログラム（以下、ELNEC-J）修了者を想定

<注釈> ※専門的緩和ケアとは、基本的緩和ケアの知識や技術を踏まえ、多職種によるチームにおいて適切にリーダーシップを発揮して、苦や死に向き合っている患者・家族を支え、緩和困難な症状や状況に対処する。また、基本的緩和ケアの担い手（緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケア以外の病棟などでの緩和ケア実践者）へのコンサルテーションと教育に対応するものである。なお、専門的緩和ケアに従事する看護師とは、我が国の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアに携わる看護師を示す。

2) 目的

「専門的緩和ケアに従事する看護師の能力」について自己評価し、その結果を可視化することで、個々の看護師および看護師チームの現状認識や教育プログラムに活用すること

3) 内容

【クリニカルラダーの構造】

◆ 3 ステップラダーの枠組み・構成

- 枠組み：『専門的緩和ケアを担う看護師に求められるコアコンピテンシー』（新幡, 2015）²⁾ の 7 つのカテゴリー
- 構成：Ⅶ領域、3 ステップ、全 110 項目

Ⅶ領域、3 ステップ、全 110 項目	数値は項目数		
	ファーストステップ	セカンドステップ	サードステップ
コアコンピテンシーを基盤としたⅦ領域 『専門的緩和ケアを担う看護師に必要なコアコンピテンシー』（新幡, 2015)			
I 患者・家族のありのままを理解し、尊重する	4	4	5
II 患者・家族のケアニーズを洞察し、問題に早期から対応する	12	6	7
III 患者・家族のスピリチュアルな苦悩に向き合い、支える	3	3	3
IV 専門的緩和ケアを実践するうえで遭遇する自己や協働するメンバーのストレス・悲嘆に対処する	5	3	1
V 専門的緩和ケアを担う看護師としての役割・責任を意欲的に果たす	3	7	5
VI 患者・家族のニーズや状況に応じて、柔軟にコーディネートする	11	2	6
VII 協働するメンバーをエンパワメントし、良好なチームを育む	3	7	10

※表中の患者・家族は、苦や死に向き合っている患者・家族を示す

◆ 各領域におけるファーストステップ、セカンドステップ、サードステップの 3 ステップ

- この分類は、開発過程で得られた緩和ケア分野のエキスパートにその能力（項目）の内容を達成することの難しさを尋ねた難易度をもとにしている。さらに、研究者間で臨床状況を加味しながら 3 ステップに分類した。そのため、ステップごとの看護経験や緩和ケア看護の経験年数、専門資格や管理職の設定などはない。
- 草案の時点で取り入れていた「緩和ケア病棟の中堅看護師に必要とされる能力」（高野, 2019）³⁾ も参考にした。
- 左側からファーストステップ、セカンドステップ、サードステップを配置し、各領域において、右側のサードステップへ進むほど、各項目の内容を達成するうえで、難易度が上がることを示す。

	ファーストステップ	セカンドステップ	サードステップ
領域 I : 苦や死に向き合っている患者・家族のありのままを理解し、尊重する			
1 患者・家族の価値観の多様性について説明することができる			
2 患者・家族の価値観に関心を持ち続けることができる			
3 患者・家族の習慣や嗜好を知り、考え方を理解するよう関わることができる			
4 死別後まで患者の尊厳を尊重した態度で、ケアを行うことができる			
5 生死に対する自分の価値観について自覚し、言葉で表現することができる			
6 看護師である自分自身の価値観や傾向について言葉で表現することができる			
7 自分自身の価値観を自覚したうえで、患者・家族の価値観に向き合うことができる			
8 患者・家族のニーズを全人的な視点から解釈することができる			
9 患者・家族の人生、生活という視点から捉えることができる			
10 家族の有り様（ありよう）をそのまま受け入れることができる			

右側へいくほど難易度は上がる

2. 『SPACE-N 3 ステップラダー 回答用紙』の使用方法

◆ 『SPACE-N 3 ステップラダー 回答用紙』に氏名および評価した日付を記載

- 1年間に3回自己評価を行うことを想定して欄を作っているが、自己評価する回数・間隔は自由である。

◆ ○×で自己評価して記入

- ○：その項目（能力）の内容を達成している ×：その項目（能力）の内容を達成していない
- 該当する評価日の列に○×を記載し、Ⅶ領域の3つのステップの110項目すべてに回答する。

記入例：評価日の列に○×で回答し、必ず、3つのステップ、7つの領域すべてに回答する。

ファーストステップ：41項目					セカンドステップ：32項目					サードステップ：37項目				
評価日					評価日					評価日				
① ② ③					① ② ③					① ② ③				
領域Ⅰ：若や死に向き合って生きる患者・家族のありのままを理解し、尊重する														
1	患者・家族の価値観の多様性について説明することができる	○	○	○	5	生死に対する自分の価値観について自覚し、言葉で表現することができる	○	○	○	9	自分の価値観を自覚したうえで、患者・家族の価値観に向き合っている	○	○	○
2	患者・家族の価値観に関心を持ち続けることができる	○	○	○	6	看護師である自分自身の価値観や傾向について言葉で表現することができる	○	○	○	10	患者・家族のニーズを全人的な視点から解釈することができる	○	○	○

The image shows a detailed view of the 'SPACE-N 3 Stepladder Answer Sheet'. It is a large grid with 110 rows of items and 9 columns representing 3 steps and 3 evaluation dates each. The items are organized into 7 domains. Blue boxes highlight the evaluation date columns and the 'O' and 'X' marks in the grid, illustrating how to record the evaluation results.

3. 『SPACE-N 3 ステップラダー 結果入力シート』の使用方法

- 【事前準備】看護師名とNoの紐づけ表を作成する（下表は例）。

No.	名前	配属年数	備考
1			
2			
3			

- No1 から、配属年数が短い順に登録すると、マップ化（視覚化）したときに解釈しやすくなる。
- 紐づけ表は入力シートとは別に保存して管理する。

- 【シートの準備】

①『個人用』シートは、次ページの図のように、エクセル内でコピーしてタブに看護師 No を入力する。

22	18	経済的問題) による患者・家族の生活への影響についてアセスメントできる				30	仕事 状況マ
23	19	症状マネジメントに使用する薬剤(例: 鎮痛薬、抗うつ薬、抗精神病薬、睡眠薬)の適用、量・種類の調整について考え、協働するメンバーに相談できる				31	患者 の評

個人用(原本) 個人用No1 個人用No2 個人用No3 個人用No4

このようにシートを人数分コピーしてタブに No を入力

②『個人用』シートの右上に、看護師 No とその人の評価日を入力する。

③『看護師チーム用』シートは、看護師チームの人数に合わせて入力する列を増減する。

● 【入力方法】

『個人用』『看護師チーム用』シートに、看護師の回答通りに○×で入力する。自動的に○を入力したセルが赤くなる。

		評価日 ① ② ③			評価日 ① ② ③			評価日 ① ② ③			
	ファーストステップ: 41項目			セカンドステップ: 32項目			サードステップ: 37項目				
10	領域 1: 苦や死に向き合って生きる患者・家族のありのままを理解し、尊重する										
11	1	患者・家族の価値観の多様性について説明することができる	x		5	生死に対する自分の価値観について自覚し、言葉で表現することができる	x		9	自分の価値観を自覚したうえで、患者・家族の価値観に向き合うことができる	○
12	2	患者・家族の価値観に関心を持ち続けることができる	○		6	看護師である自分自身の価値観や傾向について言葉で表現することができる	○		10	患者・家族のニーズを全人的な視点から解釈することができる	x
13	3	患者・家族の習慣や嗜好を知り、考え方を理解するよう関わるができる	x		7	自分の価値観が、自分自身が実践するケアにどのような影響を与えるかを認識することができる	○		11	患者が抱える問題を患者の人生・生活という視点から捉えることができる	x
14	4	死別後まで患者の尊厳を尊重した態度で、ケアを行うことができる	○		8	患者・家族の言動の背後にある本意や信念に関心に向け、患者・家族を理解することができる	x		12	看護師として患者・家族の有り様(ありよう)をそのまま受けとめることができる	○
15									13	人間の生のもろさや弱さを否定せずに受け入れ、患者・家族に寄り添うことができる	x

- 本入力シートは、視覚化しやすくするためのものであり、必ず使用しなければならないというものではない。このような回答結果を入力するシートは、自施設で作成してもよい。
- <個人用> は、1 回目~3 回目までを入力でき、<看護師チーム用> は、15 名分までを入力できるが、所属施設の評価回数・評価間隔は自由に設定でき、評価回数や看護師数にあわせてセルを増減する。

4. 3 ステップラダーによる自己評価の解釈と活用例

1) 3 ステップラダーによる自己評価の解釈

- ◆ 3 ステップラダーは、○の個数を点数化して処理するような量的な評価は行わず、ラダー全体における○の分布を可視化(マップ化)することで、自己評価結果を解釈する。
- ◆ 評価結果の解釈は、領域、ステップ別、項目(能力)内容の視点で、個や看護師チームにわけて行うとよい。
- ◆ 個人のマップ化(1 時点・経時的変化) ⇒ 自己の能力の現状認識と他者評価への活用
- 『3 ステップラダー 結果入力シート』へ評価結果を入力して、個人の能力の現状をマップ化(視覚化)する。
個人のマップ化の例: 年に3 回(評価日①、②、③) 自己評価を実施した場合

2) 専門的緩和ケアを提供するそれぞれの場における3ステップラダーの活用例・想定される活用方法

【緩和ケア病棟】

- ・緩和ケア病棟の看護師自身の自己評価による現状認識
- ・緩和ケア病棟の看護師チームの自己評価結果を教育プログラムへ活用

例：ある緩和ケア病棟にて、3ステップラダーを使用した結果を入力し、下記の①～③において白地の×が多かったのは以下だった。

- ①配属年数・ステップ別—配属 1、2年目の看護師を中心にいずれのステップでも×が目立つ
- ②領域・ステップ別—領域Ⅱのファースト・セカンド・サード、領域Ⅵのセカンド・サード、領域Ⅶのセカンド・サード（領域ⅥとⅦは中堅層も×が多い）
- ③領域Ⅱは症状マネジメント、領域Ⅵは療養場所の移行支援やリソースの活用、領域Ⅶはリーダーシップ、地域に向けた活動など

以上の結果から、教育係で検討し、年間の教育プログラムは、上半期に、弱みとなっている配属1～2年目の看護師を対象とした領域Ⅱのファーストステップにある症状マネジメント・アセスメントを中心にプログラムを組んだ。下半期は、領域Ⅵの柔軟なコーディネート、領域Ⅶの良好なチーム作りの内容を重視し、意思決定支援に関する学習会やカンファレンスにおけるリーダーシップ、リーダーシップを発揮するための薬剤マネジメントの応用力に関する検討会などを企画した。また、地域のリソースを知らない看護師が多かったため、退院支援看護師に講師を依頼して学習会を企画し、退院支援を行ったケースで事例検討会を実施する計画を立て、教育プログラムに評価結果を活用した。

【緩和ケアチーム】

- ・緩和ケアチームの看護師自身の自己評価による現状認識
- ・『専門的緩和ケアに従事する看護師の能力』をより深く理解するために基本的緩和ケアを担う看護師への教育ツールとして活用

例：院内におけるがん看護ラダー研修の参加者へ3ステップラダーを使用して自己評価を行い、専門的緩和ケアに従事する看護師にどのような能力が求められているかを理解することにつなげる。

院内のがん看護リンクナースに3ステップラダーで自己評価してもらい、3ステップラダーの項目をみて、自部署で実践可能なことを具体的に考えてもらい、自部署での基本的緩和ケアの充実につなげる。

- ・院内のリンクナースの自己評価結果の視覚化から、院内の教育プログラムへの活用

【在宅緩和ケア】

- ・事業所における看護師自身の自己評価による現状認識

例：多分野における学習が必要な中、自分の専門的緩和ケアにおける学習課題を明確にできる。

- ・『専門的緩和ケアに従事する看護師の能力』をより深く理解するために教育ツールとして活用

例：3ステップラダーの項目を通して、専門的緩和ケアにおける看護師に求められている能力を具体的に、かつ包括的に理解できる。

- ・事業所内の看護師の専門的緩和ケアにおける能力を視覚化することで、教育プログラムに活用できる。

- 個人や看護師チームの強みについては、現状認識だけでなく、強みとしている領域について、他部署や施設外に向けた学習会の企画などを行い、質の高い専門的緩和ケアを発信する役割を担うことにつなげる。

- ◆ 3ステップラダーの分析・解釈、活用方法については検証をかさねていく。

5. 留意事項

- ◆ 3ステップラダーは、領域や項目の内容を修正したり、項目の増減をしたりしないでください。
- ◆ 7つの領域間、3つのステップ間で項目を移動させたりしないでください。
- ◆ 『SPACE-N 3 ステップラダー 回答用紙』を印刷し、個々の看護師に配付し直接記入してご利用ください。
- ◆ 『SPACE-N 3 ステップラダー 結果入力シート』は、回答結果を入力するためのものです。このシートに看護師が直接入力して回答すると、他の看護師の評価結果を閲覧できてしまうため、個々の看護師が直接入力するのはご遠慮ください。

4. 問い合わせ

日本ホスピス緩和ケア協会 事務局 TEL 0465-80-1381 E-mail: info@hpcj.org

【引用文献】

- 1) 高野純子, 田村恵子, 新幡智子, 市原香織, 川村三希子, 菅野喜久子 (2021) わが国の専門的緩和ケアに従事する看護師のクリニカルラダーの開発. 第35回日本がん看護学会学術集会: P15-261.
- 2) 新幡智子 他 (2015) 専門的緩和ケアを担う看護師に求められるコアコンピテンシーの検討. 第20回日本緩和医療学会学術大会. p.320.
- 3) 高野純子, 山花令子, 山本則子 (2019) 我が国の緩和ケア病棟に勤務する中堅看護師の能力指標(competency inventory)の開発. 第24回日本緩和医療学会学術大会: O12-2.